

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年 3月23日

開催日	平成30年 3月22日	時間	10:00~12:00
場所	金沢公会堂リハーサル室	受講者	15名
講師	真田 雅行氏	作成者	佐藤 和広
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争) ⑦		
概要	<p>慶応四戊辰年八月廿日(1868年、つちのえたつとし)</p> <p>白石にて決定した供出金六万両を追々集めだして、集まった金は会津藩へ預けおくようにした。品川まで夷船を雇い榎本和泉守(武揚)と談義をとり行うことにした。その為に会津藩藩士4人を江戸まで出向させることにして、夷船が来るのを待つことにした。4人は米沢侯、仙台侯よりの頼みで米沢へ寄ることになった。</p> <p>供出金六万両はたちどころに調達出来ると思われたが、色々と不都合があり速やかには調い出来兼ねる状況に陥った。</p> <p>奥州各地の戦線の状況が入る。我等が江戸出帆の折りには奥州勢越後筋は高田城(新潟県上越市)近辺迄も攻寄、奥州筋は白川(河)城(福島県白河市)迄も攻寄、白河城も落城やの風聞有り、日光筋は今市戦争が勃発。</p> <p>最近の情報では越後筋では官軍軍艦にて新潟より上陸、新発田変心裏切りにて右之手破れ、会津領境にて防戦。奥州筋は相馬変心にて、仙台領境にて防戦。此の筋は会津領境迄も迫っている。白石城(宮城県白石市)に輪王寺宮、小笠原吉州公其の外多勢詰めておられるが形勢甚だ宜しからず。奥州諸藩は旧幕府海軍が早く同盟に参加してほしいと熱望。</p> <p>廿二日</p> <p>奥地甚切迫、情勢を知っている会津人・旧幕人から最新の情報ではほどなく江戸表より脱走した軍艦がやって来るらしい。そうなれば援軍其の外手配りできるので、その旨君公より泉州侯へお話しただけければ、速やかに事が運ぶので先ずは塩釜に行き軍艦を待つことに決まる。</p> <p>夜、仙台藩玉蟲左太夫が来る。日光宮を仙台へお迎えしたらどうかとの周旋案。</p> <p>仙台藩松倉良輔より君公を饗応したい、については梅林(偕楽園か)と申す処にお出願したいとの申し出。お共四人も丁寧なる饗応していただいた。</p> <p>八月廿三・四日頃</p> <p>回天艦脱走、寒風沢へ着。回天船将柴才一塩釜上陸、君公御逢するも才一議論支離滅裂、其上酒気有り、愚痴をこぼすだけで御細談出来兼、直ちに引き取った。</p> <p>八月十九日に回天他都合八艘江戸を脱走した。しかし廿三・四日頃鹿島灘は暴風雨に襲われ、艦隊は大損害を被った。</p> <p>廿五・六日頃</p> <p>回陽艦潜ヶ浦沖へ着いた。君公小船に乗り乗艦。榎本泉州(武揚)と御面談。劣勢挽回の策を懇談、泉州はこちらの思惑とは違い厭戦の様子。同盟軍に加わる意思は無いようである。</p>		
次回予定	平成30年 4月12日 10:00~12:00 於:金沢公会堂リハーサル室 第1学習 野嶋浦 鈴木家文書 ⑤		